

(一) 號九十八百七第 (日曜日)

四

4

新 日十二月一十年七和

(昭和五年三月一日付)

これが來るので早く壌起して乾燥地に溝を作り横に伏せ置くこと其の他収穫期がまだ早い蔬菜類には中耕を以て土壤の膨軟と排水便を圖ること次に麥作の浸水は發芽して白根の見ゆるものは土寄せをなし泥冠りは中耕で呼吸作用を助ける而して全然見込みなきものは時々として未だ遅れてはゐながら直しを行ふ若し班葉病等の徴あるものはボルビン液を散布する里芋類は其付のまゝ掘採つて二、三日陰乾をした後に貯藏する。

洗ひの後に小束となし架掛  
乾燥の上尚ほ延干を行つて  
米質の低下を防ぐこと蔬菜  
類の大根は病害發生の虞れ  
あるもので収穫期の近づい  
たものは此の際出来るだけ  
處分を急ぐ殊に根の長い大  
勞にんじん類は先端から廢  
れが来る所以で早く堀起して  
乾燥地に溝を作り横に伏せ  
置くこと其他収穫期がま

斯うして  
米質の低下や  
麥作の手  
暴風雨の爲め大被害を受けた農作物の善後策には當るが  
右に對して最良處置の例を上げて忙殺されてゐるが  
上ぐれば泥を冠る水稻は水



付日・月曜日  
郵便十五錢一部二錢半  
廣告料：一行四〇錢  
場所指定  
發行兼編輯印刷人  
半谷政喜  
發行所  
福島縣平町大町瓦  
新いわき新聞社

アトリエとは畫家や彫刻家の製作物のことと總て北向に造ることにされてゐる其れは日中太陽の光線に邪魔されるが無いからで北から来る光線は他より入るよりも均してゐる。

で中央市域の値から増を示してゐるが生産が増に伴はず若干の上値向であるが生産地の驛渡し現在姫塙は左記の如く中央の着扱は鐵道運賃並に小揚り敷料その也一表にて八表立

# 漁業者被害額

便所内で四倉町から双葉郡久の濱地を経て正午平町着同町匡救事業その危害状況を見た。四倉町から双葉郡久の濱を視察の上歸郷した。

る様な滑稽を弄するとは  
古今無類の瓢きん者と云ふ  
べきか其辭世の狂歌もまた  
随分へをくつたものなり  
この世をばどりや いと  
まに線香のけむりと共に

付及び各蔬菜類  
浴された柿三萬個  
に毛作百十町、小麥(烟)三  
は町、紫雲草浸水六十四町  
で大根同十四町九反、牛蒡  
東町、にんじん三町七反、  
害諸三町五反、柿の落果は  
た万個を算し郡農會その他  
め村指導當局は此の善終策  
出腐心中であると。

例如し織田・木下・長谷川等が、原方面に大決戦の後午前二時頃終了するものゝ如く、あるが参加人員千餘名による演習である。

は去る十四、五兩日の水害に對して補記四ヶ所の災害に對して補助申請をなすと。  
内郷村高坂地内川峯嵐壊復費二九三五圓、同經三地内右岸同五七四圓、同御廐地内右岸八七四圓、同左岸五五八圓、合計四九四圓（以上）

# 新川の被害

の點検並に見渡計練あり田部平署長の講評あつた  
石城郡湯本町消防の検閲は  
来る二十七日同町小學校庭  
に於て執行の豫定であると  
三坂 澤渡 消防檢閲

三百俵を増加し所記の結果  
を見たるものである。

▲六八三三二（九三〇〇  
増）双葉四五八九五(一  
〇八七二減)相馬一四二

十九日の朝日福島版に「  
大川の魚族料理する好々爺  
と美青年、ぶつこめの伊藤  
檢事、涙にもろい岡本檢事  
と云ふ標題の右上と左下に

濱三郡本炭同業組合に於ける去る十月の検査俵數は左記の如く十二万八千五百二十五俵で前年同期より三千二百十二俵を減じたが原因是双葉、相馬の二郡が一万千五百十二俵の生産減をなしたるものに石城が九千三百俵を増加し所記の結果を見たるものである。

▲ 檜割一俵一等四八錢、  
同二等四五錢（丸は十錢高）雜割一等五〇錢、二  
等四七錢 丸は七錢高 桦割一等七五錢、二等六五  
錢（丸は十錢高）

石城地方の水害調査に來郡  
した赤土本縣内務部長は昨  
十八日午后平着直ちに郡南  
方部の視察を終へて湯本町  
松柏館に宿泊今十九日は小  
紳士の寫真が載つて居た。  
何事が起つたのかと讀んで  
見たら、會津大川疑獄のも  
つれの糸を解く若松檢事局  
の兩檢事の履歴が書いてあ  
つた。疑獄事件に關する讀  
者の興味は無論網に引つ懸  
つた魚にあるのだが、網を  
打つた人が如何な経歴の人  
だか、わかれれば、お刺身に

# ▲豊橋破損二、沈没盛勝丸一、傳馬船二四、不明船一双一四名、死亡六名

## 内務部長の 水害視察

今十九日歸朝

大体左記の模様であると  
▲ 小さな普通船の破損三  
四、傳馬船同一〇〇、同  
行方不明三、人員三、明  
神丸の死三名  
▲ 江ノ破損五、傳馬船同  
一〇〇、同不明一、難波  
喜丸死一四名、不明喜

求思樓　夜　物語

誤つて便帯内に男子を生る  
が落し大騒ぎとなつて該兒  
を引揚げ應急手當を加へた  
が効なく死兒を即日平署の  
檢視を受けた。

西氣  
男子を便益に  
生み落す  
生應  
事松永精妻るめ(三〇)は臨  
川町鎌田五色町遊廓萬歳樓  
に近づいてゐるので同町新ら  
郷相川やいの看護手當を時  
又けてゐたが昨十八日午前九  
時半頃便意を催し自宅既  
に行つた際俄かに產氣づい

が惜しいことに明き盲だ  
「と云ひましたので主人  
大に驚き折から來合せた  
舉共々どう云ふ譯で盲馬  
かと百姓爺に問ひました  
聞、遂に自首の機を逸す。  
拂つては、一人で泣く彼  
とみの勤先での話』同  
の日々には『怪奇のバラ  
事件、遂に謎の扇開か  
思ひ餘つて兇行、凄い  
ラ／＼作業』こんな標題  
掲げられては、讀まさら  
と欲しても豈得べけんや

流石名人の畫とて生々躍  
今にも動き出し相な有様  
應舉も頗る得意であり頼  
だ人も大満足でゐたとこ  
此の頼んだ人の家に出入  
る近在の百姓爺が或時此  
屏風を見て「ハア此の馬  
んとに生きてる様に見え  
が惜しいことに明き盲だ  
」と云ひましたので主人  
大に驚き折から來合せた

嫁應舉しうと粗仙であるが  
め。と云ふ古川柳がある  
舉も粗仙も共、動物の寫  
繪を巧みにし殊に應舉は  
、粗仙は猿をよししたか  
出來た川柳だが此の應舉  
川派の元祖であつ當  
並ぶ者なき名人と云はれ  
講工であつた或時から  
まれて野に遊ぶ馬の畫を  
双の屏風に揮毫したと

**商業方**

火簡力乾燥法(六)  
穀物の補助  
火簡力乾燥法(六)  
火簡力乾燥法(六)  
火簡力乾燥法(六)

炉の大きさは乾燥室の大きさによつて異なるも前記標準型(間口十尺、奥行六尺、高さ八尺)にありては深さ一尺五寸乃至一尺六寸、巾一尺六寸乃至一尺七寸、長さ五尺位とし、四坪の乾燥室にありては深さ二尺五寸巾二尺乃至三尺、長さ十尺位が適當である。

(二) 煉炭と煉炭火鉢  
(イ) 煉炭の使用量、煉炭の使用量を増せば一般に克く乾燥するも、或程度を越して量を多く使用するも効果が渺なく反つて來たすこととなる、故に二坪室位には直徑七寸のもの三個まで四坪室(高さ八尺乃至十尺)には四個乃至五個を適當とする時は胴割れの増加を來たすることとなる、故に二坪室位には直徑七寸のもの三個まで四坪室(高さ八尺乃至十尺)には四個乃至五個を適當とす

(ロ) 煉炭製造法、其の規模の大小によつて種々装置を異にするも自家用としては手打が最も簡便であります手打が最も簡便であります

現今各種無煙炭中煉炭原料としては鴻基(ホンゲー)及び山陽粉炭が最優品として各方面に多く販用されてゐる、今此の二

種に就ての割合を上げれば次の如きものが最も適當である

婦 婦 平看護婦會 電話三〇三番

詰 元酒 G.H.N. 菊 ト イ ノ  
スベイ 甘味ボルゴ  
(平二) 西村屋藥鋪 (電三)

淋病最新藥 美神 一週分四〇〇  
平山野邊藥局 代理店

城磐 共濟病院案内  
院長醫學博士 石山謙郎  
小兒科 (醫學博士) 石山謙郎  
外科耳鼻咽喉科 (醫學博士) 石山謙郎  
喉科皮膚科 (醫學博士) 石山謙郎  
產婦人科 (醫學士) 佐久間粹  
衛生試驗所 (醫學博士) 佐久間粹  
X光線科 (醫學博士) 佐久間粹  
藥局 (藥劑士) 吉本幸平  
◎診療時刻午前八時より午後五時迄  
但急患は此の限りに非ず

明治生命 繁城  
代理店  
醬油味噌  
たひら正宗  
鰯節食料品

金 山崎合名會社  
福島縣平二七〇番町  
電話一本營業部  
自炊の便あり

お醬油は……ヤマフル

金 山崎合名會社  
主 任、藥劑士 山野邊東次郎  
東華皇漢藥研究所  
顧問、藥學博士 柳澤秀吉先生指導  
自炊の便あり

入院應需  
明雲堂眼科醫院  
主任、藥劑士 山野邊東次郎  
外科 (整形外科) 醫學士 平井新川町一九  
木村病院

化體溫計  
「クスリ」の調合  
製販賣 金成國雅  
平町五丁目角  
山野邊藥局

強烈な煙突  
朝日  
石綿セメント  
経済的  
大氣の心配が無い  
金屋商店

本丸はん家具店  
平町三丁目電話三五九番  
室內裝飾  
食堂設備  
御用命直ちに専屬の技術員を差遣し破格的大勉強でお調へ致します

債券、公債、兩替、金融  
多田井質店  
平町大工町  
電話五九一一番

内科、小兒科  
外科、花柳病科  
耳鼻咽喉科  
レントゲン科  
院長醫學士 高久忠  
大森醫院  
平町南町  
(電二五八番)  
入院  
醫學士 大森勇  
大森  
高久病院  
平町田町、電五二三番  
内科、小兒科  
外科、花柳病科  
耳鼻咽喉科  
院長醫學士 高久忠